

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書（参加学生）

平成 25 年 3 月 18 日

所属：教育学研究科 教科教育専攻 英語教育専修 1 学年

氏名：西村 美里

研修先大学・機関名等（国）：カーロリ・ガシュパル大学／日本貿易振興機構（JETRO）Budapest
国際交流基金ブダペスト日本文化センター 他（ハンガリー）
カレル大学 他（チェコ共和国）

在籍身分：研修生

渡航年月日： 2013 年 2 月 28 日

帰国年月日： 2013 年 3 月 14 日

○研修先での学習内容等

【ハンガリー】

カーロリ・ガシュパル大学訪問では、日本語学科と英語学科の授業に参加しました。日本語学科では、学部・大学院あわせて4つの授業に参加し、秋田の方言について用意していたプレゼンテーションを行ったほか、現地の学生によるハンガリーのさまざまな文化、また、日本人を対象にしたアンケート調査についてのプレゼンテーションを



カーロリ大学の学生とブダペストの夜景

聞き、それらの内容について日本語で意見交換をするなどの活動に参加しました。また、英語学科では、英作文と英会話の2つの授業に参加し、現地学生と一緒に、適切な英語論文の構成について話し合ったり、英会話のタスクに取り組んだり、イディオムを使って物語を書くなどの活動を行いました。

大学以外では、日本に関連したブダペスト市内の二つの機関に訪問しました。一つ目は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）のブダペスト事務所です。ここでは、日本人の所長である柴田さんにお会いし、JETRO の行っている事業内容や、ハンガリーを中心としたヨーロッパ-日本間の貿易や経済事情について、年度別データや他国との比較データを参照しながらお話をうかがいました。もう一つは、国際交流基金ブダペスト日本文化センターです。ここでは、岩永所長さん、三宅副所長さん、そして日本語専門家の三森さんから国際交流基金の概要につ

いて教えていただいたのちに、日本文化センターにて有料で提供している日本語の授業を2つ参観しました。どちらの授業でも、10人以下の少人数の受講者と、日本語・ハンガリー語に堪能な講師が会話しながら、オリジナルの教科書に基づいて授業が進められていました。

これらの施設訪問のほか、海外で日本語を学ぶ人々にとって最大のイベントである日本語スピーチコンテストを参観し、深い知識と考察に富んだ内容とすぐれた表現の仕方に驚かされました。6日間のブダペスト滞在中には、毎日カーロリ大学の学生が歴史的な建築物や施設の残る街を案内してくれ、非常に丁寧な日本語と英語でわかりやすく説明をしてくれました。

【チェコ共和国】

カレル大学では、日本学科の3つの授業に参加しました。普段はチェコ人の先生がチェコ語で行っている授業だったのですが、ブダペストのカーロリ大学でも行った秋田弁についてのプレゼンテーションを日本語で行い、質疑応答もすべて日本語で行いました。ほかに、日本の料理について書かれたテキストの内容について教師による解説と意見交換を行う授業に参加し、また、大学院の授業では、『源氏物語』をチェコ語に翻訳する授業も参観しました。



カレル大学でのプレゼンテーション

カレル大学の学生も、毎日プラハの旧市街地や歴史的な建造物、その他の文化施設に案内してくれ、その間はほとんど日本語のみで会話をしました。学生たちは、日本語・日本文化の知識もチェコの歴史や文化、また現在のチェコの政治・社会情勢などの知識も深く、日本への留学経験のある学生は特に流暢な日本語を使って各所について解説してくれました。また、カレル大学には、日本からの留学生も来ており、現地の学生や教員とはまた少し異なる視点でプラハやチェコ人の印象について話を聞くことができました。

○研修期間の生活面について

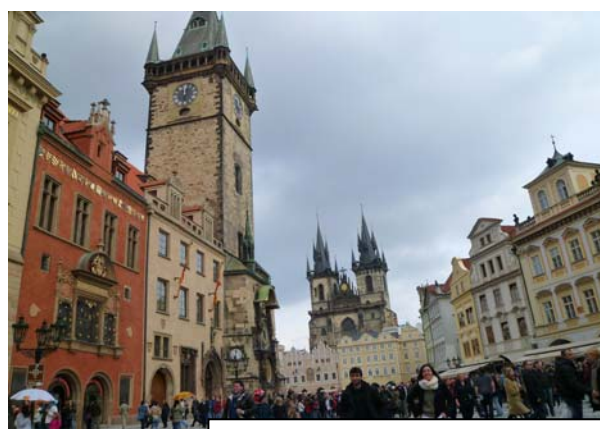
研修期間中は、各1週間弱の短期滞在ということでブダペスト・プラハともに中心地に近いホテルに滞在し、そこでは英語の堪能なスタッフもいて、ほとんど問題なく過ごすことができました。ブダペストでは、急な工事によって同じ系列で近くにある別のホテルに部屋を移動することになったものの、移動先の部屋については問題ありませんでした。プラハのホテルでは観光シーズンということもあり、予約時の為替レートに比べ滞在中のほうが円安となっていたため、4か月前のホテル予約時にあらかじめオンラインで決済をしていたことで滞在中に想定していたよりも宿泊費を安く抑えることができました。ホテルの朝食はビュッフェ形式で、新鮮な肉・野菜・乳製品と焼きたてのクロワッサンなど、とても充実していました。

軽食や飲み物などは、大通りやホテル近くにあるスーパーマーケットや土日でも24時間営

業しているミニマーケットで購入することができました。ハンガリーでのスーパーで買い物をする際には、四捨五入の要領で細かいおつりまでは返さない仕組みになっていました。例えば、合計で 737 フォリントの買い物になるところが、会計では 735 フォリント分を支払い、2 フォリント得をすることになりました。ハンガリーでもチェコでも、レストランでの支払いの際には、すでにサービス料込みで伝票に請求されていましたが、実際にはそれよりも少し多めにチップとして支払うのが通常のマナーのようでした。

ブダペスト・プラハともに、中心地ではガイドに連れられた大人数の観光客グループの姿も多くみられた一方で、それを狙った物売りが多くいたほか、私自身もプラハでの初日に路面電車に乗ろうとした際に、トラブルを装って私のかばんをひったくろうとする女性 2 人組に遭遇することになりました。また、プラハの旧市街では、手数料 0% をうたいながら実際には表示よりも低いレートで交換を行うような不審な両替商が多くあり、現地の学生に公正な取引を行ってくれる場所を教えてもらいました。

このように、日本人学生だけではたとえグループで行動しても不安な要素が残るため、ホテル周辺以外の場所には、常に現地の学生に案内してもらいましたが、結果として学生たちと交流を深めながら両国について詳しく知ることができてよかったと思います。



観光客でにぎわうプラハの旧市街地

○研修期間全般にわたる感想

今回の研修で学んだことのなかで、2 つを取り上げるとすれば、情報手段を活用することと、英語を学ぶことの大切さです。

3 年前の短期研修プログラムでは、今では秋田大学の国際協定校となったルーマニアのブカレスト大学を訪問し、その時の経験を踏まえての、今回の中東欧 2 ヶ国の滞在となりました。前回の研修とのもっとも大きな違いといえば、現地の学生とあらかじめコンタクトをとっていたということです。幸い、ブダペストのカーロリ大学の学生たちが出発前に日本語もしくは英語でメールを送ってくれ、どこに行きたいか、何を見たいかなどのこちらの要望を聞いてくれた上で、市内ガイドの計画を立ててくれたほか、ハンガリーの文化や学生が日本についてどのようなことをどれくらい知っているかを、メールや Facebook でのやり取りを通じてあらかじめ知っておくことができました。

こうした連絡を通じて得た情報は、自分でインターネットなどを使って調べるよりもはるかにわかりやすく、研修に臨むうえで参考になるものでした。また、滞在していたホテルや飲食店等では、日本と同様に無料の Wi-Fi サービスを提供している場所も多く、スマートフォンを経由して現地の学生たちや日本にいる家族・友人とも連絡をとることができました。このように、使えるものを効果的に使うことで、短い研修をさらに充実させることができたと思います。

もう一つ、3年前の自分自身と比較してわかったこととして、これまでの大学の授業やそれ以外の英語使用経験から、格段に語学力が上がったことです。以前は、空港の免税店ですら店員とのやりとりを恐れて買い物も躊躇っていた自分が、自身を持ってカウンターの向こうのスタッフや学生たちと英語で話すことができていることに気づきました。滞在先の公用語であるハンガリー語もチェコ語も全く理解できないにも関わらず、英語で学生たちに聞いたり、スタッフに伝えたりすることで、ほとんど問題なく2週間の滞在を終えることができました。

これは、自分の学習の成果を実感するとともに、訪れた2つの都市において、いかに英語が普及しているかを、身を持って知る良い機会となりました。両方の都市においても、大学生や大学職員は当然英語を流暢に話すことができ、飲食店をはじめ公共施設のスタッフはほとんどみんな英語で問題なく対応できる能力を持っていました。それは、ただ単に観光地だから、という理由だけではなく、誰もが、EU圏の中にあるその土地に住み、仕事を得て、生活するために英語を身に付けており、人々の生活の中に第2言語としての英語がしっかり根付いているという印象を受けました。

○今後の勉強計画

上記のような英語を話す人々を目にするたびに、『日本ではどうか・・・。』また、『自分は英語の教師として、彼らと同じように英語を話すことができるのだろうか。』この2つの問いが常に頭に浮かんでいました。そこで悲観的になるのではなく、これほど英語が使われている非英語圏の国々に2週間も滞在できたという経験を4月からの教育現場において大いに生かしていくとともに、大学院を出ても「教員だから」という理由ではなく、自分自身の生活を豊かにするための自分の能力と知識の量を高めるべく、英語と国外についての学習を続けていきたいと強く思います。

学生としての最後の機会に、このような貴重な体験と知見を得られて、本当に良かったと思います。研修を企画・引率して下さったEmma Morita先生をはじめ、たくさんお話を聞かせて下さった現地の大学生、教員の方々、訪問施設のみなさん、一緒に行ったメンバーの3人に感謝します。